

zip\_\_sign and still lifes(記号と静物)

exhibition\_ishiba ayako(石場文子)

2020.04.10\_04.26 11am\_\_7pm

Gallery PARC



《2と3、もしくはそれ以外(わたしと彼女) -台所-》

2019

インクジェットプリント

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、2020年4月10日(金)から26日(日)まで、石場文子による個展「zip\_sign and still lifes:記号と静物」を開催いたします。

2014年に京都嵯峨芸術大学造形学科版画分野を卒業、2016年に愛知県立芸術大学美術研究科博士前期課程を修了した石場文子(いしば・あやこ / 1991年・兵庫県生まれ)は、おもに写真を媒体とした作品を制作・発表し、2019年には「VOCA展2019 現代美術の展望 ― 新しい平面の作家たち」での奨励賞受賞や「あいちトリエンナーレ2019」への参加など、目覚ましい活動を続けています。

石場はこれまで、写真を媒体に日常的な風景を取材し、そこに実際の面や線によって介入することで、鑑賞者の「見る」と「認識する」の間にズレを生じさせ、私たちの視覚認識のあり様へと注意を向ける作品を制作しています。2014年ごろから制作をはじめた「ソファと□のある風景」シリーズは、赤や青の色面や、ストライプが印刷された四角形の紙をソファの上に並べて撮影した作品であり、同時期に制作された「Laundry」シリーズは、靴下などを撮影・印刷して切り抜き、物干し機に洗濯ばさみで吊り下げた様子を撮影したものです。これらはいずれも実際の空間では平面(2次元)であったものが、写真内の状況によってクッションや洗濯物といった立体(3次元)と錯視されることで、私たちの認識のあり方に触れるものといえます。また、近作である「2と3のあいだ」、「2と3、もしくはそれ以外」シリーズは、実際の被写体の輪郭線に見える部分を黒く塗りつぶして撮影することで、今度は実際の立体(3次元)を平面(2次元)へと錯視させています。

石場は写真の中に「面」や「線」によって介入し、そこに錯視的な視覚をつくり出すことで(2次元)と(3次元)という概念を強く意識させます。これにより鑑賞者は視覚と概念のズレを認識し、そこを「往き来」するような鑑賞体験を得るといえます。そして、ここで、なにより興味深いのは、これらが「写真」の内に発生している点ではないでしょうか。写真といういわば平面(2次元)の上のイメージにおいて、私たちの「2次元⇄3次元」というこの錯視・認識のズレは、何に起因するのでしょうか。そもそもすべてのものに厚みや手触りがあるなかで「2次元」という存在はあり得るのでしょうか。では、私たちが石場の作品を見て感じる違和感はどこからやってくるのでしょうか。

本展では石場の現時点での代表作となった「2.5」シリーズ作品と合わせて、これまでの作品の中でも幾度か思考されていた「パターンや記号」・「静物」といった要素を取り入れた作品を発表します。また、これまでの(2次元)と(3次元)という構造の中に「時間」という要素を扱った作品を組み込んだ構成として展開します。これにより、本展は今までの石場の作品を点検する機会であるとともに、現時点での作家の興味や、今後の作品展開を見とおす機会としてお楽しみいただけるのではないのでしょうか。



《2と3のあいだ(トタンと植物)》

2019

インクジェットプリント

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【[info@galleryparc.com](mailto:info@galleryparc.com)】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 zip\_sign and still lifes(記号と静物)

出展作家 石場文子 ishiba ayako

会期 2020年4月10日[金] — 4月26日[日] 11:00~19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

主催 ギャラリー・パルク

料金 無料

会場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F **MAP**

アクセス 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

問い合わせ Gallery PARC (正木・村田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F

TEL 075-231-0706 FAX 075-231-0703 MAIL [info@galleryparc.com](mailto:info@galleryparc.com) HP [www.galleryparc.com](http://www.galleryparc.com)

**Statement**

一見何もない、なんでもないことが「何もないことなんてない」と感じた時、自分の立っていた世界が脆く、目の前が一気に広がる気がしています。

例えば、ただの壁だと思っていたものにドアや窓が付いていたら、きっと私たちはその壁の向こうを想像すると思います。私の作品はそんなドアのような存在でありたい。

誰かがこうである、と決めたことに対して私は作品を通して笑ってやりたいのです。違う見方を提示したい、可能性を模索したい、自分の立っている場所を少しでも広げたいと思っています。



《 2と3のあいだ(洗面台) 》

2017

インクジェットプリント

C.V

石場文子 (ISHIBA Ayako)

1991 兵庫県に生まれる

2014 京都嵯峨芸術大学造形学科版画分野卒業

2016 愛知県立芸術大学美術研究科博士前期課程修了

<個展>

2019 「次元のあいだ」児玉画廊(東京)

2018 「たかが日日」山下ビル(愛知)

2017 「2.5」KUNST ARZT(京都)

2015 「しかく -Square/ Sight/Blind spot-」KUNST ARZT(京都)

2013 「house」KUNST ARZT(京都)

<グループ展>

2019 さっぽろアートステージ 2019 ART STREET 美術展『まなざしのスキップ』札幌文化芸術交流センター SCARTS(北海道)

2019 ignore your perspective 52「思考のリアル Speculation ⇄ Real」児玉画廊(東京)

2019 「LUMIX MEETS BEYOND2020 by Japanese Photographers #7」Gashouders (アムステルダム) / IMA Gallery(東京) / Galerie Nicolas Deman(パリ)

2019 あいちトリエンナーレ 2019「情の時代」愛知芸術文化センター(愛知)

2019 IMA×Edition “STYLED IN PHOTOGRAPHY” vol. 1 「写真を着る、言葉を纏う〜フォトグラファーと言葉によるTシャツコラボレーション〜」IMA Gallery(東京)

2019 「VOCA 展 2019 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」上野の森美術館(東京)

2018 「Pop-up Dimension 次元が壊れて漂う物体」児玉画廊(東京)

2018 「メソッドの考察」愛知県立芸術大学学食2次元(愛知)

2018 ART NEXT NO.3「不透明なメディアムが透明になる時」石場文子 × 守本奈央「温かいベンチ」電気文化会館(愛知)

2018 石場文子 × 守本奈央「立てる」Masayoshi Suzuki gallery

2018 「写真的曖昧」金沢アートグミ(石川)

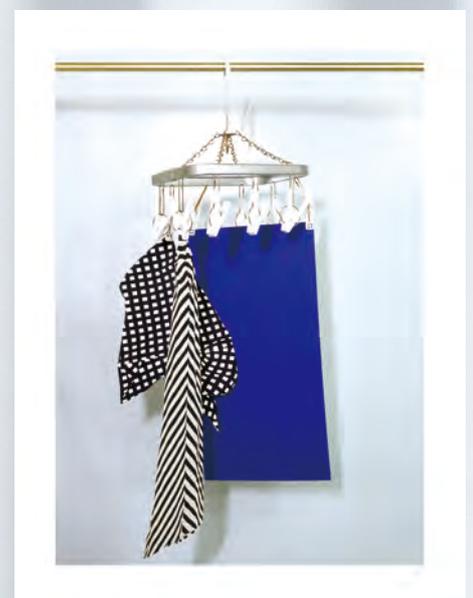
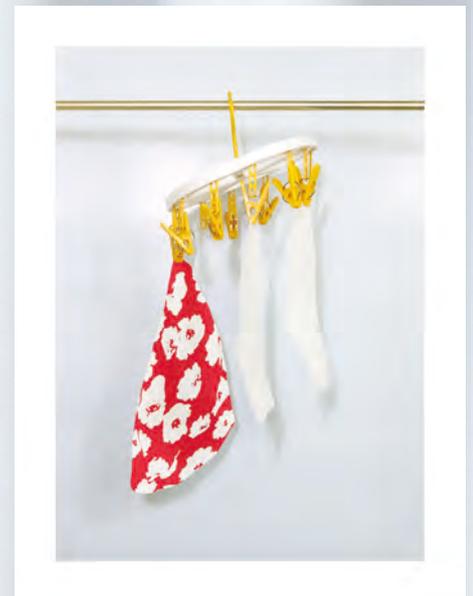
2016 ギャラリー矢田パートナーシップ<Next#4>「見えないものをみる力」市民ギャラリー矢田(愛知)

2016 石場文子 × 中山絵梨「アワーモデルルーム」愛知県立芸術大学サテライトギャラリー(愛知)

2015 「Lagrangian point パースペクティブカスタマイズ」 Gallery PARC(京都)

<受賞歴>

2019 VOCA 奨励賞



《ソファと□のある風景 #2》

2015

インクジェット(シルクスクリーンほか)

「Lagrangian point パースペクティブカスタマイズ」 Gallery PARC 2015 会場風景

[上から] laundry #1~#3

2018

インクジェットプリント